

No.629 (改題589号)
2023年
9月13日(水)

新社会兵庫



週刊 新社会

発行所: 新社会党
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三成工業ビル3F
TEL. 03(6380)9960 FAX. 03(6380)9963

新社会党兵庫県本部 神戸市中央区中山手通5丁目2-3 ☎078(361)3613 FAX078(361)3614 毎月第2、第4水曜日発行 購読料月400円(1部200円)郵便振替:01120-7-16805

ひょうご

70 碑 物語

この碑は、今は高架化されたJR東海道線と石屋川が交差する地点の南側の公園内にある。旧石屋川隧道は日本で最初の鉄道トンネルとして建設された。完成した

のは1871(明治4)年。住吉川や芦屋川でも同様のトンネルが完成、1874年5月に大阪-神戸間が開業した。六甲山南麓は急峻であるために、河川ごとに扇状地が形成され、中流部では住宅よりも高いところを流れる天井川になっ

ている。当時の機関車は勾配に弱かったため、天井川の上を超えるのは困難で、川底の下に隧道を通して線路を敷設する工法がとられた。なぜ、工事が困難な山麓近くに隧道を敷設したのか。浜手に建設する計画に、酒造家から「汽車のゴベラ(石炭)の煙で酒が腐る」とのクレーム

があったからだという。ちなみに「天井川」がいかにも盛り上がりしているか。JR線のすぐ北側を並走する山手幹線を車や自転車で行くとみると実感できる。最大で15mの高差がある。阪神・淡路大震災の直後、交通手段が奪われ、自転車で神戸川公園内。



1871年、日本で最初の鉄道トンネルとして建設されたことを記念する碑が近くの公園に立つ

戸に通ったが、川を越えるなどのアップダウンに閉口した。(鍋島) 【メモ】阪神・石屋川駅下車。北へ600m。石屋川公園内。

【訂正】前々号の当欄の碑の所在地は、正しくは「姫路市本町」です。ミスを訂正し訂正します。(編集部)

旧石屋川隧道記念碑

(神戸市東灘区御影石町4丁目)

大学誘致で今ある施設「なくさんといて!!」



集めた1万1098筆の署名と市長への手紙の横で炎天下での署名活動を報告=8月27日、動物園ホール

市民が望まぬ大学誘致が柱の王子公園再整備計画。現スタジアムの場所に大学が来ることによって今ある公園内の諸施設の多くが廃止され、移転して新設されるスタジアムの近隣エリアでは光害・騒音問題や車の渋滞が予想される。それでも神戸市は市民の声を傾けず計画強行だ。この動きにも諦めることなく「大学誘致のための公園の切り売りは許さない」「市民の財産である王子公園を守ろう」と、猛暑の中でも市民の運動は続けられている。「王子公園・市民ミーティング」実行委員会が8月27日に開いた「こまる!市民の大集会」では市民から大学誘致で生じるさまざまな問題を訴える声が続出した。

動物園ホールで開かれた集会には110人を超える市民が参加した。司会の実行委員会事務局の小林みずさんによるこれまでの取り組みの経過報告に続き、1万1098筆集まった関西学院に応募の取り下げを求める署名活動について山田和子さんが報告。夏休みに親子連れでにぎわう王子プール前ではプールを利用する子どもたちにも神戸市長に「プールを

なくさないで」のメッセージ(市長への手紙)を送ることを呼びかけ、約200通が集まったことなどが紹介された。続いて、諸施設の利用者の声として用意されたスピーチが文書で紹介された(代読)。再整備計画ではプールをはじめ、サブグラウンド、相撲場、テニスコート(一部を除き)が廃止される。神戸市相撲連盟会長の山田高司さん、新日本スポーツ連盟兵庫テニス協議会、学校の水泳部監督として水泳指導に関わる市民らから、施設の廃止と、代替施設も十分に確保されないことで学校の部活動にも大きな支障が出るなど訴えられた。

会場からのフリーのスピーチでは若者男女14人から発言が相次ぎ、プール使用の問題や動物園、環境への影響など、今後予想される「困る」実情や問題点が、神戸市長や市政の姿勢への批判を含めて続出した。また、再開発による公園の樹木の伐採や市民の憩いの場の縮小など同様の課題を抱えている運動体からの連帯メッセージも紹介された。神宮外苑

再開発計画の見直しを求め、東京都に対する行政訴訟の原告団長のロツシェル・カッパさんや明石公園の自然を次世代につなぐ会の松本誠さん、須磨水族園を考える会、(尼崎)小田南公園の池を愛する会からのもの。集会の最後に、当面の行動として以下の3点が

金丸正樹実行委員会事務局長から提起された。①関学への署名簿提出と計画説明会の開催要請(8月29日)、②神戸市・市長室への「市長への手紙」の提出(8月31日)、③神戸市・都市局への「申し入れ」提出(集会で出した声と要求を届ける)と懇談(9月4日)だ。

市民デモHYOGO 夏の交流会を開催

原発、憲法、沖縄、いのちとくらし等のテーマで討論 コロナ禍という困難な状況の中でもさまざまなテーマで連続学習会や講演会、諸行動に取り組んできた「市民デモHYOGO」は、運動の拡がりなど多くの課題を抱えている中、お互いに議論・交流を行いつつ今後の運動の展望を切り開いていこうと、8月19日、1年4ヶ月ぶりに「夏の交流会」を神戸市内で開いた。約70人が参加した。最初に、全体的な問題提起として松本誠さん(連帯兵庫みなせん)が「社会を変える市民運動と政治」というテーマで問題提起。中央段階で野党と市民の共闘が後退しているこの状況の中で、当面は地域・自治体からうねりを再構築していくことが重要だとし、東京・杉並区や明石市などの市民自治運動の経験を踏まえながら、日常的に地域の課題について自治体改革と暮らしの向上を通じた主権者市民の連



今後の運動の展望を切り開こうと討論と交流の場とした市民デモHYOGOの「夏の交流会」=8月19日、神戸市中央区文化センター

携を強めていくことが重要だと指摘した。続いて、①原発、②憲法、③沖縄、④いのちとくらし、⑤差別と歴史認識、⑥市民デモ学習会、⑦市民運動と地方政治のテーマで、それぞれの提起者から問題提起が行われ、質疑や意見表明が行われた。その中では、憲法を生かす会・西神戸連絡会の山田誠一さんが9月23日に開催する「ストップ!マイナ保険証 市民の集

い」の取り組みを紹介し、運動を強めようというアピール。また、「王子公園・市民ミーティング」実行委員会の金丸正樹さんは、8月27日に開催する「王子公園 こまる!市民の大集会」を紹介し、自治体民主主義の立場から大学誘致で市民の共有財産を切り売りしようとしている神戸市を批判し、住民自治を広げて王子公園を守るようアピールした。(中村)

水脈

単なる言葉ひとつにもそこに政治が絡むと、それが暴言とかの類でなくても騒がしくなる。立場上は「処理水」と言うべきところを「汚染水」と言い間違えてしまった農水大臣。直ちに謝罪と撤回となった▼「処理水」も事実の一端を言い表してはいるものの「汚染水」であることには違いない。海洋放出された福島島の「原発汚染水」について、海外の報道では、例えばradioactive waterのように、「radioactive」という「放射性的(ある)」という言葉が必ず使われている▼民の反発を極力避けるため、都合の悪い事柄の本質をスバリ言いたい表現ではなくあいまいな言い回しで本質を隠そうとするのは為政者の常である。端的に言えば、ある種のゴマカシである。武器輸出三原則が防衛装備移転三原則に、敵基地攻撃能力が反撃能力に変えられたのもその類だ▼気がつけば、日本のマスコミも、野党の一部までもが「処理水」という表現一色だ。どこか1社でも「汚染水」と言ったらどんな攻撃を「世間」から受けるだろうか。想像するのが恐ろしい。「新たな戦前」下、こんなところにも言論ファシズムのような状況がつけられているのか、とは言い過ぎだろうか。

結成20周年で記念講演会 永井幸寿弁護士が講演

有事法制に反対するネットワーク東播磨



憲法への緊急事態条項の創設をめぐる議論について解説する永井幸寿弁護士＝8月27日、加古川市

有事法制に反対するネットワーク東播磨が今年結成20周年の節目を迎えた。この会は、平和を愛する市民団体で、誕生は2003年5月22日。同年3月25日にJR加古川駅前で行ったイラク戦争反対集会、パレード行動がきっかけとなって「加古川ネット」が立ち上げられ、その後「東播磨」へと拡大した。

し、戦争に反対する志を持つ人ならだれでも加入できる市民団体で、誕生は2003年5月22日。同年3月25日にJR加古川駅前で行ったイラク戦争反対集会、パレード行動がきっかけとなって「加古川ネット」が立ち上げられ、その後「東播磨」へと拡大した。

永井さんは、いま改憲政党内論が緊急事態条項の創設をめぐる、なぜその条項が憲法にないのかを憲法制定時の議論に遡って解説。当時の金森国務大臣が、①民主政治を徹底させ、国民の権利の擁護には非常事態に政府の一存で行う措置は極力防止する、②非常という口実で政府の自由判断を大幅に残すような精緻な憲法も破壊される、

③非常時に衆議院が解散中の場合は参議院の緊急集会で対処できる、④非常事態には平常時から個別法で準備しておくなどと答弁し、濫用の危険性を考え緊急事態条項は憲法に規定しなかったことを紹介した。

兵庫たたく仲間集

- 9月30日(土) 13:30～
- 中央区文化センター・多目的ホール
- 闘いの報告と記念講演 智さん(毎日新聞記者)
- 講師: 東海林 (毎日新聞記者)

(主催) 集会実行委員会

きる状況になっている。マスコミも全くキャンペーンを張らないし、国民の自覚も足りない。会としても、また何々人でもSNSの活用などでキャンペーンを行おうとの訴えがあり、改憲阻止の決意を新たにしたい。(藤井)

「武器輸出の全面解禁へ道開く 自公政権協議」
武器輸出の全面解禁へ道開く、自公政権協議。政府は、英国・イタリアと共同開発する次期戦闘機を念頭に、第三国への輸出を解禁する見解を明らかにした。

した上で自衛隊の存在を「加憲」する改憲が妥当だと強調した。国民の玉木氏は、9条2項が焦点になると言及し、「(自衛隊を) 戦力として認めて正面から制約をかける改正が必要だ」と主張。(以上、毎日)と主張。

改憲の動きをウォッチング

「武器輸出の全面解禁へ道開く 自公政権協議」
武器輸出の全面解禁へ道開く、自公政権協議。政府は、英国・イタリアと共同開発する次期戦闘機を念頭に、第三国への輸出を解禁する見解を明らかにした。

「国会での徹底した議論」
各社の8月後半の世論調査でも、岸田内閣の支持率の低迷が続いている。毎日(8月26、27日)の調査では、前回(7月)から2ポイント減の26%、不支持率は3ポイント増の68%。政権維持の「危険水域」とされる支持率が30%を下回るのは2カ月連続。

「有志の会」が8月19日、27日では支持率は2%上昇したが42%にとどまり、不支持率の50%を下回った。

読売(8月25、27日)では支持率は前回と同じ35%、不支持率は2ポイント減の50%だった。

この意見に対して維新の馬場氏は「(国民に) なかなか受け入れてもらえない。9条は(国民投票で) 絶対に通る案を出さなければいけない」と反論。1項と2項を維持している。(中)

学校教育の今を考える(2) 「定額働かせ放題」の解決を

教育現場の超多忙状況が一般に広く知られるようになり、教員の志望者減の大きな原因になっている。新年度でもやはり「教員不足問題」はニュースとなって、「担任発表ができない」「担任が3回も変わった」など、この問題が依然続いていることがわかる。日教組が調べた昨年の全国平均の教員の1カ月残業時間は、小学校が93時間48分、中学校が113時間44分だ。これでは志望者は増えない。

小学校の1クラスの人数が40人から35人に変更されて3年になる。今の4年生までだ。神戸市は独自予算で4年生まで35人定数を実施しているため、3年間は今までとは変わらない状態だが、問題はこれからで、例えば4年生で20人・2学級の学年は、次年度5年生になるときに急に40人・1学級になる。問題が起らないわけがない。クラスの人数が多くなると授業のしんどさや担任の苦悩は確実に増える。かつて財務省官僚が「クラスの人

数を減らすことが教育効果上がることにつながるとは証明されていない。」「などと一言(それならクラスの人数を減らしても教育効果は変わらないという根拠はあるのかと突っ込みたくなる)、学校現場の多忙化を放置してきたのだ。幼稚園や保

育所の担当児童数が多すぎること、マスクコミで取り上げられているが、昔から現場では言われていたことだ。教員の定数は自治体により多少増員されることもあるが、原則として法により決められている。今の教員定数で1クラスの人数も変わらないのなら、多忙状態は変わらず、教員志望者の減少を防げないまま教員不足が続いていく。非正規教員でカバーしようとしているが、限界がある。収入面でも不安定な働き方であるからだ。児童数、学級数だけを基準

とした配置ではなく、複数担任やフリー教員などを正規で配置できる新しい定数配置も考えていくべきだ。そして、この問題解決を遅らせている大きな要因が次の点である。

現在、公立学校の教員は「教職員給与特別措置法」(給特法) による給与の4%の調整額上積みとされている代わりに残業代は支払わないという制度になっていて、これが「定額働かせ放題」という実態を生み、多忙状態の温床になっている。

私の主張

文科科学省は、ブラックといわれる教員の

将来的には月20時間程度とすることを指すとし、それに見合う10%以上の調整額を求めている。ただ、当面は時間外勤務月45時間以内を目指すとしており、20時間ですら、いつ実現できるか不透明だ。その後、これを含めた内閣の「経済財政運営と改革の基本方針」(いわゆる「骨太の方針」) だが、どこが骨太なの? が閣議決定された。

しかし、多くの教員が求めているものは、労働に見合った給与と上げることがもちろんだが、それより、せめて労基法で定められている程度の「過酷ではない」労働条件にして

榎 和男(教育労働運動研究会)

今、沖縄から平和を問う

芦屋の5市民団体が集会主催

「今沖縄から平和を問う」をテーマにした集会が8月25日、芦屋市内で開催された。芦屋地労協、芦屋「九条の会」、あたたく、民主的な市政をめざす芦屋市民の会、憲法あしやの会、市民がつくる芦屋会議の5団体の主催によるもので約50人が参加した。



三上智恵監督のスピノフ作品を観たあとは戎剛さんの沖縄の歌を聞いた＝8月25日、芦屋市

憲法あしやの会の小畑広土さんの司会で進められた集会では、三上智恵監督の「沖縄、再び戦場へ」(仮題)の派生作品の上映、戎剛さんの三線と沖縄の歌、急逝された松田妙子さんの紙芝居「まるで石ころのように」の上演などが行われ、5団体からの問題提起を前田

辰一さん(市民がつくる芦屋会議)が行った。その中で前田さんは、南西諸島の軍事基地化の現状や大軍拡予算などにふれたあと、「憲法13条や25条などについて、私たちの日々の暮らしの中でどう生かされているか点検し、地域から憲法を活かす運動に取り組んでいこう」と提起した。

戦争のできる国にさせない 高作正博関西大学教授が講演

多可・西脇部落解放共闘が「平和の集い」

高作さんは、この20年余の間の憲法9条をめぐる解釈改憲の歴史をたどりながら、「安保三文書の危険性や「反撃能力」(敵基地攻撃能力)保有容認の問題性とその矛盾点などを詳しく説明。その上で、政権主導の絶対平和主義に立ち戻って議論を展開しよう」と提起があった。



講演を聴き岸田政権の大軍拡・改憲にどう立ち向かうかを考えた「平和の集い」＝8月25日、西脇市

部落解放多可・西脇共闘会議が主催する「2023多可・西脇 平和の集い」が8月25日、西脇市立大野隣保館で開かれた。集いでは関西大学法学部教授の高作正博さんから「大軍拡・改憲反対」戦争のできる国にしないために」と題して講演を受けた。

高作さんは、「戦争をしたら「罰金」が課せられ、運送代も余分にかるので「出荷時間厳守」であった。遅延させないためには包装を詰め込むバツカン(プラスチック製の容器)と搬送用の台車の確保が必要不可欠であったが、それらは他部門と取り合いの状態であった。そのため、就業時間内で確保すること

政治家だと指摘。そして最後に、いつても改憲案が発議される状況だが、憲法9条の規範である「絶対平和主義」など、議論の防御線を引き直していく必要があると強調した。(戸田)

◆インフォメーション
第8回東灘憲法カフェ
◎9月29日(金) 13時30分
◎横屋会館・1階集会室
◎落語とお話「また! 介護保険の改悪...」
2024年4月からどう変わるの? / 今、介護現場の現状は? / 都亭アロハさん / 菊地真千子さん◎参加費300円◎主催「憲法00円(学生無料)」

地域ユニオン あちこちあれこれ (417)

2010年10月31日、自ら命を絶った、河田正義さんの息子の河田明範さん。はりまユニオンにも相談があり、河田正義

さんは、(株)手柄食品で働いていた明範さんの自死は会社の働かせ方に原因があるとして労働災害の一連の申請手続きを行い、裁判も起こした。しかし、労働保険審査会の裁定、その処分

悔しさ残る、納得いかなない裁判結果

の取り消しを求める訴訟の大阪地裁、大阪高裁の両判決のいずれもが精神障害の発症や業務の起因性を否定するものであった。

明範さんの妻と子どもはこのまま彼の「死」を無駄にしたいくないと、「安全配慮義務違反」の損害賠償を請求することにし、姫路地裁に再提訴を行った。

裁判の争点は、漬物の包装の準備作業の大変さであった。包装の責任者であった河田明範さんは、包装が遅れて出荷遅延が

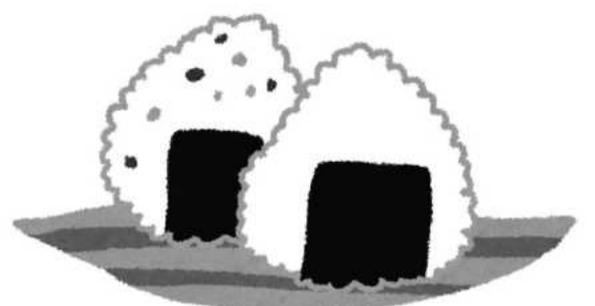
発生したら「罰金」が課せられ、運送代も余分にかるので「出荷時間厳守」であった。遅延させないためには包装を詰め込むバツカン(プラスチック製の容器)と搬送用の台車の確保が必要不可欠であったが、それらは他部門と取り合いの状態であった。そのため、就業時間内で確保すること

は不可能であったので2時間前に出勤し、定時後3時間は翌日の包装準備のために居残りをすることになった。その過労のため、認定否決後の、地裁・高裁では会社は、いままら「安全配慮義務違反」の損害賠償請求事件から出ているとばかりに請求を「棄却」したのだ。納得のいかなない裁判だった。

美味しい新米のご案内です!

気象台が統計を取り始めて以来、最も異常高温が続いた8月でした。まだ残暑は続いています。農家の皆さんの頑張りで、美味しい新米をお届けできる季節を迎えています。9月配達分からすべて新米になります。せめて、暑さに疲れた体を、毎日の食事で整えてください。新米が手に入ったら、まずは塩にぎり決めている人もいほど格別な新米。ぜひ、食べてみてください。

- **でかんしょ米 (小多田屋米穀店)** すべて新米!
10キロ 5,300円 / 5キロ 2,650円 / 3キロ 1,590円
- **ささや米 (耕しや/阪東農園)** すべて新米!
10キロ 5,100円 / 5キロ 2,550円
(玄米10キロ 4,800円 / 5キロ 2,400円)



(有) ぴいふる
電話/ファックス 078(531)0135

※価格の改訂は、10月配達分からとさせていただきます。(米の卸価格は9月中頃に決まります。)

おんなの目

今年の5月 中旬に転職し、現在の職業に就きました。前職とは全く異なる仕事に就きました。働き始めて3か月が経ち、慣れてきたこともあり、すべここに追われる日々ではなくなってきました。知的障がい者の生活介護の事業所で、職員が約15名と利用者さんが約25名と、大きくない規模の中で事務職として、事業所の一員として働いています。職員も利用者さんも個性豊かで、日々新たな発見を見つながら働いています。

「成長する」ということだということを感じました。また、そのために周りの環境はすごく重要なポイントであると感じました。

大事なことは「成長する」こと



「成長する」と言えたり、感じたりすることはできないと思います。そんな中でも、小さな喜びや楽しさを共感することができ

いつもプラス思考で取り組めることばかりではないと思いますし、簡単に「成長した」と言えたり、感じたりすることはできないと思います。そんな中でも、小さな喜びや楽しさを共感することができ

「成長する」と言えたり、感じたりすることはできないと思います。そんな中でも、小さな喜びや楽しさを共感することができ

「成長する」と言えたり、感じたりすることはできないと思います。そんな中でも、小さな喜びや楽しさを共感することができ

「成長する」と言えたり、感じたりすることはできないと思います。そんな中でも、小さな喜びや楽しさを共感することができ

増補版 雲ながるる果てに

「神風特別攻撃隊他の一員として、大空の彼方、海原の果てに散った若き海軍予備学生たちが、母に、妻に、恋人に、そして祖国の未来に、熱い想いをこめて書き遺した青春の絶唱」と帯紙に謳ってあるが、本書は、戦後50年目にあたる1995年に発行された。増補再刊の理由は、その2年前に靖国神社で開催された「学徒出陣50周年・蘇る殉国学徒の至情」特別展で、戦没者と同じ年齢の若者たちが感涙とともに、「知らなかった」「もっと知りたい」「後世につたえたい」との声が多かったからという。

戦没学徒の真情が風化されつつあるなか、「新たな戦前」といわれる時代状況のいま、意に反して南海に散っていった若き学徒の想

戦没海軍飛行予備学生の手記 (副題)

- 【川柳合作】(4人全員23歳)
- 「アメリカと戦う奴がジャズを聞き」
- 「ジャズ恋し早く平和がくれれば良し」
- 「特攻隊神よ神よとおだてられ」
- 「特攻のまじい辞世を記者はほめ」
- 「夕食は貴様にするよ友は征き」
- 「万歳がこの世の声の出しをさめ」
- (昭和20年4月6日に2名、同月11日に2名、南西諸島で戦死)
- 【死の覚悟】
- 「死の覚悟というような悟りは私にはできません。地上では、生きていたい、生きていたいという気持ちが私の心の全体です。しかし、私は死を覚悟して、今出発するのです」
- (昭和20年4月8日、海南島海口にて。この後、5月29日沖繩にて戦死。23歳)
- 【歓呼の中の母・妻・子】
- 「身にあびる歓呼の中に母一人 旗をも振らず涙ぬぐひ居り」
- 【愛児への便り】
- 「追伸 素子が生まれた時おもちにしていた人形は、お父さんがいたたいて自分の飛行機のお守りにしております。だから素子はお父さんと一緒にいたわけです。素子が知らずにいると困りますから教えてあげます」
- (昭和19年10月26日、レイテ湾で戦死。25歳)
- 【追伸】
- 「追伸 素子が生まれた時おもちにしていた人形は、お父さんがいたたいて自分の飛行機のお守りにしております。だから素子はお父さんと一緒にいたわけです。素子が知らずにいると困りますから教えてあげます」
- (昭和19年10月26日、レイテ湾で戦死。25歳)
- 【追伸】
- 「追伸 素子が生まれた時おもちにしていた人形は、お父さんがいたたいて自分の飛行機のお守りにしております。だから素子はお父さんと一緒にいたわけです。素子が知らずにいると困りますから教えてあげます」
- (昭和19年10月26日、レイテ湾で戦死。25歳)

ミニミニモン：インポッシブル / デッドリロニング PART ONE

トム・クルーズが、昨年の「トップガン マーヴェリック」に続き、今年も超ド級のアクション映画を送り出した。イーサン・ハント(トム・クルーズ)率いるIMF(不可能作戦部隊)の活躍を描くシリーズの7作目だ。

今回彼らに課せられたミッションは、全人類を統制する2本で1組の鍵を手に入れること。物語はその鍵を巡って、各国の情報機関や武器商人らとの熾烈な争奪戦を描く。世界各地の名所旧跡を舞台にしたアクションシーンが、これでもかと繰



り出される。砂漠の銃撃戦に始まり、空港での追撃戦、ローマではバイクと車の曲乗りで公道を爆走、ベネチアの迷路のような路地を全力疾走し、オリエンタル急行での決闘まで、観客に息つく暇を与えない。

中でも最大の見どころは2つ。1つはバイクに乗ったまま断崖絶壁からの大ジャンプ。そしてもう1つは、爆破された橋へ転落寸前の宙づりになった列車の中の重力を相手にした大立ち回りだ。還暦を超えているとは到底思えないトム・クルーズが、キレッキレでスピード感あふれるアクションを最後までに自己の肉体



を使った演技を何十年にも渡って披露し続けている俳優は、これからも出てこないだろう。誰もが鍵の重要性を認識しているものの、差し込むべき鍵穴がどこにあるのかは誰も知らない。みんなが血眼になって追いかけているのは、壮大な鬼ごっこのような。だからといってストーリーは大味かといえば、決してそうではない。2本の鍵を巡る争奪戦という意味では、シンプルな筋立てであるが、登場する4人の女性をはじめ、誰が敵で誰が味方か、誰が裏切り者で誰が協力者か。手に入れた鍵は本物か偽物か。てんこ盛り

シネマランド

シリーズ最高傑作と言えらる7作目作品

監督 IIクリストファ・マッカーリー / 2023年 / アメリカ / 164分